

元気をもらえる劇的ノンフィクション

角川書店

BOOKS
Interview

vol.27



「へこたれない姿にエールを送りたくなる」「ラーメン1杯2000円」が普通の世界だなんてビックリだね」と感想を語り合う3人。写真左から泉山清佳さん(29歳/マスコミ)、伊藤涼子さん(31歳/建設)、淡路かおりさん(30歳/金融)

角川書店ホームページ
<http://www.kadokawa.co.jp>

淡路 辻元清美さんといえ
ば、テレビで見た「総理！
総理！」のイメージが強
かったでしょ。どこか一人
で突っ走ってしまうタイプ
に見えたけど、この本を読
んで印象が変わったな。人
情深い大阪で育った人柄が
よく伝わってきた。
伊藤 私は、辻元さんが自
じやった。
泉山 難しい政治本かと思
ったら、エッセーに近い感
じで読みやすかったよね。
伊藤 政治に詳しくない私
でも、面白くて一晩で読ん
じゃった。
分の弱さも正直に認めてい
るところに好感を持った。
言ハ訳していいところがい
い。

36歳で政界に飛び込んだ辻元清美さん、自身の壮絶な半生をつづった「へこたれへん。」を発表。政治権力闘争ゲームの中でおぼれもがき、葛藤(かつとう)、挫折、絶望、苦悩の底で、希望をつかんで再生してゆくすさまじい軌跡…。シ
ティ読者が読んだ感想は？

淡路 実話ならではの迫力
もあったよね。右も左も分
からない辻元さんが、自分
の意思とは関係なく政界に
飲み込まれていく恐ろしき
リアルに描かれた。
泉山 こういう権力構造つ
て、一般の会社にも多かれ
少なかれあるような気がす
る。政治の世界って縁遠い
よなけど、実は身近なの
かもしれないね。
伊藤 この本をきっかけに
私自身、もっと政治に関心
を持たなくちゃ考えるよ
うにもなったんだ。水田町
の悪あしき習慣に染まっ
てしまったのは問題だけ
ど、そんな習慣があること
自体に疑問を感じるから。
淡路 私も。これからは
選挙はちゃんと考えて投票
ね。



「へこたれへん。」
ノンストップ半生記
1470円(著/ 辻元清美)

どん底で希望をつかみ全力で疾走する、著者のノン・ストップ半生記「へこたれへん。」1470円(著/ 辻元清美)。角川書店から発売中

しよつと意識が変わった。
泉山 私、辻元さんが周り
の人に支えられて成長して
いく姿がとっても印象的だ
ったの。たくさん仲間や
地元の人、家族との関係に
温かいものを感じた。
伊藤 それに引きかえ、留
置場での話はすさまじかつ
たよね。あのシーンで見え
てくる不透明な関係には今
も釈然としないものが…。
でも、そんな闇やみの部
分に負けず、持ち前の行動
力でがんばってほしい。
泉山 そうそう、落ち込ま
ないで前向きにね。
淡路 失敗や挫折を乗り越
えて復活する辻元さんの姿
を通して、逆に私たちが元
気をもらった感じがする
ね。